

都市経営入門

担当教員： 岡辺 重雄ほか

履修年次・区分： 1年（専門一学部基礎【必修】）

授業のテーマ： 「都市を経営すること＝都市経営」には、学際的・実践的な学びを必要とします。本講義では、総論としての都市問題や都市経営のあり方を学んだうえで、福山市を具体的事例として地方都市における都市経営の現状と直面する課題を理解します。次に、各論として人口減少と都市間競争が進み公民連携やイノベーション、同時に都市の国際化や多文化共生も求められている21世紀の都市経営課題と解決の試みを、国内外の実践例を含めて解説をします。

この日の授業内容： 都市の歴史的発展と21世紀の都市問題／

都市の経営と政策、評価の仕組み



都市経営入門は1年生1学期の必修授業です。これから学んでいく「都市経営学」とは何なのか、どんな内容を学んでいくことになるのかを、毎回いろいろな先生が担当して伝えていきます。

岡辺先生の回では「人々は何故都市に集まるのか」との基本的な問いから始まりました。政治、経済、工業などのために人々が集り、文化が興り、更に都市が拡大してきたことを学びます。



金先生の回では、経済から見た都市を俯瞰します。公共政策とは、経済的になるべく多くの人にとって良い状態にすることを目指すことだといえます。公共政策では「目的（誰のため、何を基準に）」「方法（どのように、何をもちて）」「主体（誰がするか、誰が決めるか）」の3つが重要ですが、多くの人々が住む都市でこれらを決めていくのは非常に難しい課題です。「都市経営学」はこのような都市の課題に取り組んでいきます。

(2017年4月取材)